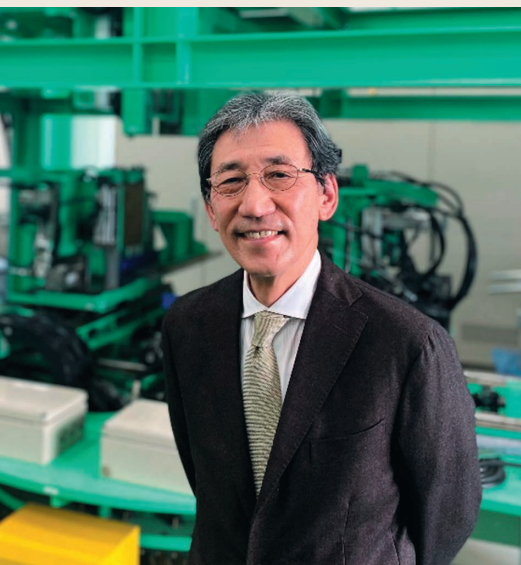


創業100年を超える抵抗器の総合メーカー

『抵抗器』ひと筋にトップメーカーの地位を築く

鈴木合金 株式会社

大阪市大正区に本社を構える鈴木合金株式会社は、創業100年をこえる抵抗器の総合メーカーです。「抵抗器」は電気の流れを調整する働きをもっており、産業には欠かせない装置です。長年培われた同社の抵抗器開発に関するノウハウと技術力は他社を圧倒し、業界では独自の地位を確立しています。今回は、同社代表取締役会長兼社長の鈴木慶一氏に、創業からの事業の変遷、同社の強みや今後の展望について伺いました。



鈴木合金 株式会社

代表取締役 会長兼社長：鈴木 慶一 氏

創業：1917年（大正6年）

従業員数：100名

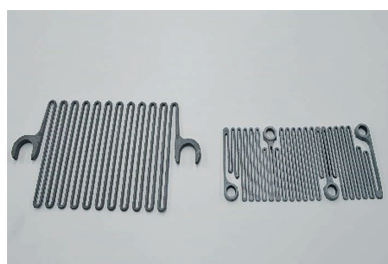
事業内容：車両用、電力用及び一般産業用
抵抗器の製造・販売



― 創業当初から「抵抗器」を製造

当社は大正6年（1917年）に私の祖父が創業しました。祖父はもともと神戸にある三菱重工の造船所で鋳物の職工として働いていました。当時、鋳物の多くは海外からの輸入が中心で、そこに目をつけた祖父は、鋳物の中でも、電気を制御するために使われる「抵抗体」を国内で生産できないかと考え独立しました。祖父は起業家精神が旺盛だったようで、独立するまでにさまざまな事業の立ち上げを経験していたそうです。

独立当初は抵抗体の鋳造に加えて、抵抗体を集めた「抵抗器」の製造をはじめ、事業を徐々に拡大させていきました。



当社が製造している抵抗体

― 鉄道業界の発展と共に事業を拡大

現在では産業用、電力用など、さまざまな分野で使用される「抵抗器」を製造していますが、はじめは鉄道車両に搭載される抵抗器でした。鉄道用の抵抗器は車のギアみたいなもので、電流の抵抗値を変えることで、モー

ターの回転数を制御し、速度を調整する働きを持っています。

当社では、路面電車にはじまり、旧国鉄や私鉄、都市交通局等へ昔から抵抗器を提供してきました。また、東海道新幹線の車両には開通当初から当社の製品が採用されるなど、日本の鉄道インフラの発展にともなって、当社の事業も拡大していきました。



当社の製品が搭載された車両『しまかぜ』

― 民営化の影響と事業の多角化

状況が一変したのは、旧国鉄が民営化された時期でした。民営化により製品の販売先や販売方法が従来から大きく変わりました。旧国鉄時代には当社に委託されていた抵抗器のメンテナンスなどの仕事が、民営化後にはJRの子会社が当社に代わって行うようになるなど、当社の売上が激減しました。また、抵抗器を搭載しない新型の鉄道車両が導入され始めるなど、当社にとって不利な要素が重なり、大変厳しい時期でした。

しかし、そうした時期があったからこそ、事業の幅を広げることができた



同社のメイン製品のひとつである電力用抵抗器。抵抗器が大きな電流を逃がす安全装置のような役割を果たす。身近な例では、発電所や変電所などで、雷から機器を守るために同社の製品が使われている。



日本のダンプカーは油圧の力でダンプの上げ下げを行うのに対し、海外の鉱山で稼働する大型のダンプカーは電気でダンプの調整を行っている。その電気の制御のためにも、同社の抵抗器が搭載されている。



写真は「抵抗体」の鑄造作業の様子。予め制作した砂型に熱した鉄を溶かし入れているのが分かる。短時間で一気に作業を行う必要があるため、決められた時間に、大勢の作業員で一斉に取り掛かる。

ことも事実です。それまでは売上の7割～8割ほどを鉄道車両向けの抵抗器事業が占めていました。このままではいけないということで、事業の多角化を進めました。現在は電力用、制御機器用、産業用など、他の分野が成長してきており、バランスの取れた事業展開を行えるまでになりました。

— 高い技術力で細かなニーズに対応 業界で独自の立ち位置を確立

当社は受注生産が基本です。製品のはほとんどは顧客の要望に沿って製品を制作する「オーダーメイド」生産です。例えば、鉄道車両の場合、当社の製品は車両の床下のスペースに搭載されます。地面と車両の間の限られた空間であることはもちろん、走行する地域によって環境も大きく異なるため、制約が多く、求められる性能が一品一品異なります。



車両と線路の間に抵抗器が搭載される

当社は設計、制作、納入、メンテナンスまで一貫して行っているため、そうした顧客や製品ごとに異なるニーズにきめ細かく対応できます。オー

ダーメイドの設計技術、そして長年培った抵抗器製造に関するノウハウから、今では抵抗器に困ったら鈴木合金という立ち位置を確立することができています。

— 昔ながらの製造工程と今後の課題

一方で、課題もあります。当社では、顧客の要望に合わせて一品一品製品を生産しているため、生産工程の自動化がなかなか進みません。鑄物の製造をはじめ、研磨や組立、溶接など、大半の工程を熟練技能者の手作業に頼っているのが現状です。特に、鑄造工程は作業方法が独特であり、人海戦術で行った方が自動化するよりもかえって効率的なこともあります。コストと作業時間の兼ね合いから、なかなか自動化に踏み切れてないのが現状です。

熟練の技術が必要とされ、自動化が難しいという面をプラスに捉えれば、大手企業や他の分野の会社が新規参入しにくい市場とも言うことができます。しかし、今後、ますます変化が激しくなる社会の中で、業務の効率化・生産性の向上は必須になってくると思われます。社長の私が言うのも変ですが、幸いにも、社内の雰囲気良く、熱心な社員が多いのが当社の強みでもあると思っています。まだまだ課題もありますが、社員と力を合わせて、ひとつひとつ解決していきたいと思っています。



抵抗器の組立工程の様子

— 社員一丸となって進む

当社が取り組む経営スタイルを、鉄道に関わってきた会社らしく、「新幹線経営」と呼んでいます。新幹線は、先頭にモーターがあって後ろの車両を引っ張っているのではなく、各車両にモーターがついています。社員全員が一丸となって会社を引っ張っていくという意味を込め、そう呼んでいます。

企業経営では『人・モノ・金』が重要と言われていますが、私は『人』の成長こそが一番大事だと考えています。業績が悪くなれば、教育費を抑える会社も多いと思いますが、こうした時期にこそ、来るチャンスに向けて知識を吸収することは重要だと考え、積極的に教育の機会を設けるようにしています。これから当社を担う社員の皆さんには、長年の抵抗器開発で培った技術を活かして、新しい製品の開発、新規事業の開拓にもどんどん挑戦してほしいと思っています。

— 貴重なお話をいただき、
誠にありがとうございました